

福浜議員要望項目一覧

令和6年度11月補正分

要望項目	左に対する対応方針等
<p>(1) ライドシェアの検証と今後の改善検討</p> <p>タクシー不足の解消を目的に、ねんりんピック鳥取2024で、来場者の移動手段の確保策として、中国地方初のイベント対応型のライドシェアが実施されましたが、思ったほど利用は伸びなかったようです。</p> <p>しかし、大阪・関西万博やワールドマスターズゲームズ、9年後の国民スポーツ大会等の大規模イベントをはじめ、昨今のインバウンドの増加を考慮すれば、今回のライドシェアの人材確保を含めたノウハウを今後も伸ばす必要があり、その意味でも利用が伸びなかった要因の分析が必要と考えます。</p> <p>要因は「事前PR不足」と伝えられていますが、どのようなPR方法だったのか？要因はPR不足だけなのか？等の検証と今後の需要増を睨んだ改善策の検討を要望します。</p>	<p>ねんりんピック期間中の交通需要増に対応するため実施した今回の日本版ライドシェアは、タクシー事業者7社の御理解と御協力のもとで実施し、今大会をきっかけに普及に向けた一定の足掛かりができたところであり、今後は、11月中旬に開催するライドシェア検証会議等において事業者等の意見を伺いながら、大規模イベント時等における移動手段の不足への対応として、ライドシェアの安全な運行方法や観光施設や飲食店等におけるPRを含めた効果的な広報手法について検証・検討していく。</p>
<p>(2) LIVE119（映像通報システム119）の早期整備</p> <p>119番通報時、リアルタイムで現場の状況を把握する上で、スマートフォンを活用し、映像を消防局に伝えるLIVE119システムの普及が全国的に広がりを見せています。</p> <p>本県でも、東部・中部・西部の各消防本部で、同システムが早期に導入されるよう県の取組を要望します。</p> <p>併せて、大雨等による土砂災害などに遭遇した際にも、LIVE119と同様に、スマートフォンを活用して現場映像をリアルタイムで道路管理者等に送信できるようにするためのシステム構築についても検討を要望します。</p>	<p>「Live119」は火災や救急事案などの際の貴重な情報ツールの一つと考えられる。</p> <p>県内消防局では、既にLive119の導入に向けて検討が進んでいるところであり、県としても導入を促していく。</p> <p>また、大雨等による土砂災害などの発生時は、いち早く避難することが前提であるが、一般県民が道路の損傷等を見つけた際の通報については、道路緊急ダイヤル（#9910）のほか、従来の電話での通報に加え、令和6年3月よりLINEアプリによる写真を用いた通報も可能としている。</p> <p>県の道路損傷の報告においては、道路管理者やパトロール委託業者、補修業者向けにタブレットを使用して通報する「道路維持管理システム」を導入しているところであるが、現在一定の知識や技術力を有する住民からの通報を可能とするよう試行を始めており、今後、本格的な導入に向けて検討を進めていく。</p>

要望項目	左に対する対応方針等
<p>(3) 権利の主体として子どもを捉える動きの加速化 国連の「子どもの権利条約」に基づき、「子どもの意見表明権」など、権利の主体として子どもを捉える動きが加速している中で、3点要望します。</p> <p>①鳥取県kid's サイト（きっずらんど）リニューアルを 今年7月、東京都こどもHPの月間閲覧数が前年度月平均の100倍に急増したとの報道がありました。子どもたちの意見を取り入れ、トップページを更新。クイズ形式で都の魅力やデータを「見える化」した結果、学校の授業での利用も大幅に増加したということです。 本県で育つ子どもたちが、本県についての興味や関心を深める意義は極めて大きく、県教委が掲げる「ふるさとキャリア教育」「探究学習」等の教材としても活用できるよう、子どもの声を反映して「きっずらんど」のリニューアルについて検討していただくよう要望します。</p>	<p>本県では平成18年度より県内の子ども向けに本県について分かりやすく解説したサイト「きっずらんど」を運用・公開してきたが、子ども向けに県の魅力や子育て支援策等をより知ってもらうきっかけ作りを創出するため、新たな子ども専用サイト「キッズポートトリ」を令和5年3月に開設したところである。本サイトは、子どもたちにも企画・運営に携わってもらいながら、内容の充実を図っているところであり、今後も子どもたちの意見を反映して内容の充実と更なる活用を行っていく。</p>
<p>②災害時の「遊び場」確保 能登をはじめ過去の災害時、学校の校庭に仮設住宅が建ち並ぶケースが通例となっています。避難生活が長期に及ぶ「非日常」の中、災害時だから仕方ないと諦めるのではなく、大人同様に、PTSD やストレスを抱える子どもたちが「日常」に戻れる空間、つまり「遊び場」を確保する視点も不可欠だと考えます。 県内市町村では、応急仮設住宅の建設候補地として「校庭」を挙げている自治体がどの程度あるのか？県として把握した上で代替地の検討を要望します。</p>	<p>学校の校庭をはじめ、土砂災害警戒区域や災害廃棄物の集積場が仮設住宅の建設候補地となっている箇所については、その妥当性を再検討し見直しを行うよう、本年5月に市町村に依頼したところである。 引き続き、建設候補地の適切な設定に向けて市町村に働きかけていきたい。</p> <p>(参考) 校庭を候補地としている市町村(R6時点)：鳥取市、八頭町、南部町、日吉津村、日野町</p>
<p>③児童養護施設の児童生徒に対する「習い事」支援 推薦枠拡大などの大学入試改革や部活動の地域移行の流れの中、学習塾と同様に、スポーツや文化活動の「習い事」へのニーズが一層高まることが予想されます。里親家庭については「習い事」への県助成がある一方、児童養護施設については、「習い事」に対する助成がないため改善を要望します。</p>	<p>施設現場からも入所児童の習い事に関する費用の支援があれば、児童の学びや活動の機会の保障がより一層充実するとの声も聞いているため、令和7年度当初予算案において、施設入所児童の習い事に関する費用の支援について検討する。</p>

要望項目	左に対する対応方針等
<p>(4) いじめと不登校との因果関係について</p> <p>今年3月、島根県教委が、小・中学生時に、不登校だった高校生に対して、その要因を聞き取るアンケートを実施したところ、「いじめ」だったとの回答が小学校で27.5%、中学校で16.6%と最も多かったという結果でした。</p> <p>一方、文科省が2022年度に、学校対象に行った調査では、「いじめ」の割合は、小・中学校ともに1%未満で、両者に大きな乖離があることが浮き彫りになりました。</p> <p>本県でも、文科省の調査では「無気力・不安」が要因のトップだった一方で、「いじめ」が要因との回答は少なく、傾向は島根県と同様でした。それだけに、今回の島根県の調査結果は、決して他人事とは思えません。</p> <p>新たに文科省では「無気力・不安」のきっかけについて深掘りする調査を実施しており、近々、結果が公表されることになっていますが、その結果と島根県の調査結果を照らし合わせて、「いじめ」と「不登校」との因果関係に関する分析を、各学校現場としっかり共有し、生かしていくよう要望します。</p>	<p>令和5年度に行った不登校児童生徒に関する本県独自調査において、「不登校児童生徒に対して把握した事実」として「いじめ被害の情報や相談があった」と回答した学校は、小学校5.8%、中学校1.7%の割合であった。</p> <p>同調査では、公立小・中学校の不登校児童生徒の約75%は登校につながるなどの変容がある一方、約25%は変容が見られない状況であることも明らかとなっており、不登校児童生徒の状況についての的確なアセスメントと効果的な対策が喫緊の課題となっている。</p> <p>今後は、「不登校の要因分析に関する調査研究報告書(文部科学省)2024.3公表」及び「不登校に関するアンケート調査(島根県教育庁)2024.6公表」の調査結果も活用しながら、従来の不登校対策に加え、「いじめ被害」「先生からの厳しい叱責」等が不登校要因となりうることや、いじめ等を要因とする不登校に対する具体的な対応策について学校現場と共有し、教師に見えにくいいじめ被害及び友達とのトラブル予防に向けた研修を開催するなど不登校の未然防止を推進していく。</p>